

Q7. 界面反応の寄与は、比界面積(A/V)の大きさに決まります。液液系の場合、反応物の水相、有機相あるいは界面での濃度を測定して、その値が比界面積（実際には反応系の体積 V は一定ですので、界面積 A を変えることとなりますが）に依存するようであれば、界面反応の寄与があるということになります。界面積を変える方法としては、液液系であれば講義で紹介したように、攪拌法や遠心液膜法、マイクロセル法などが利用できると思います。界面濃度を直接測定することは、どの反応でも簡単にできるというものではないので、水相か有機相のバルク相の濃度が界面積の影響を受けるかどうかを調べるのが現実的かと思います。固液系の場合は、接触面積や固体粒子の粒径を変えることで、比界面積に相当する値（総表面積/（総固体質量または液相体積））を変えることができるでしょう。

（渡會 仁）